中等教育研究開発室年報　第 34 号（2021 年 3 月 31 日発行）別冊電子版
2020 年度　授業実践事例

保健体育科　中学校第 3 学年

サッカーに学ぶ「自由・自主・自律」

授業者　松本　茂

（教育研究大会　公開授業）

広島大学附属中・高等学校

中学校　保健体育科（体育）　学習指導案

指導者　松本　茂

日　　時　令和 2 年 12 月 4 日（金）　第 3 限　10:40～11:30

場　　所　グラウンド（雨天時：体育館）

学年・組　中学校 3 年男子前半 28 人（A 組 10 人　B 組 9 人　C 組 9 人）

単　　元　ゴール型（サッカー）

目　　標　1. 安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防する（知識及び技能）

2. 攻防において自己やチームの課題を発見し，合理的解決に向けて仲間と協力できる（思考力，判断力，表現力等）

3. 互いに助け合い教え合おうとすることなど，健康・安全に留意して活動できる（学びに向かう力，人間性等）

指導計画（全 12 時間）

第一次　個人的技能の習得・確認　2 時間

第二次　個人的技能の向上。集団的技能の習得　3 時間

第三次　自己やチームの課題を理解し，戦術に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。　7 時間（本時 5/12）

授業について

サッカーを「する」中心的な面白さは，ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し，シュートを決めたり，グループ戦術を活かして得点を防いだりしてチームに貢献することだと考える。また，サッカーは「みる」スポーツとしても世界中で多くの人々に親しまれており，その要因はルールが簡単であることや，勝敗が分かりやすいことにあると考えられる。しかし一方で広いフィールドで行われるため，ゲーム様相をよく理解していないと，どこをみれば良いのか分かりにくい。テレビ放送などで映らないエリアで何が行われているかを想像することも必要になってくる。

一般的に成人に比べて中学生の視野は狭く，ボールばかりに意識が集中してしまい，空間を意識したり，全体の動きを広く捉えることが難しい。その為，授業で取り扱う範囲が「する」にとどまると個人的技能に偏ってしまいがちである。

そこで本単元では「役割に応じて，いま何をすべきかを考え，主体的に行動する」ことを目標とし，全体のゲーム様相を見ながらプレーしようとする姿を目指した。学習内容として，個人的技能はパスやドリブル，シュート。集団的技能はグループ戦術に主眼をおき，攻撃においてパスをつないでシュートを狙うためにいかに仲間と連携して動けるかを考えさせたい。

本時では 2 種類のゲームを行い，役割設定の中で責任を自覚し，状況把握から自らの判断で仲間へ働きかける重要性に気づかせたい。

題　　目　サッカーに学ぶ「自由・自主・自律」

本時の目標

1. 攻撃において，自分と全体との関係を考えながら，ドリブルやパスを用いて，シュートを狙うことができる。（運動の技能）

2. 課題に対して，気づきや発見を共有し合い，協力して活動することができる。（運動におけ

る思考力・判断力・表現力等）

本時の評価規準（観点／方法）

1. 攻撃において，自分と相手との関係を考えながら，ドリブルやパスを用いて，シュートを狙うことができる。（運動の技能／活動観察）
2. 課題に対して，気づきや発見を共有し合い，協力して活動することができる。（運動における思考力・判断力・表現力等）

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
【導入】 出欠点呼 本時の説明 準備運動	○集合 ○本時の学習内容を把握し，課題を確認する ○準備運動	・健康観察，見学生徒への指導。 ・課題を理解できているか確認する。
【展開】 グループごとでの活動	○ボール操作の確認 ・リフティング，パス，ドリブル ・ボールを止めて動かす ・ミニゲーム	・課題意識を持って積極的に取り組めるよう声かけを行う。
第１ゲーム 見える	○役割設定ゲーム ・チームでポジションを確認して配置する。 ・それぞれの役割を果たしてゲームを展開する。	・生徒同士の有効な戦術的声かけができるよう促す。
第２ゲーム 比較する	○全員攻撃，全員守備ゲーム ・基本的役割は継続。 ・ゲーム全体の動きから，自ら判断して行動を決める。	・全体の様子を把握するために，生徒同士でどのように動けば良いか声かけができるよう促す。
【まとめ】 本時のまとめ まとめる 片付け	○本時のふり返り ・グループの課題がどの程度解決されゲームに活かせたか。 ・サッカーに学ぶ学校生活を理解する。	・気づきを共有する。
備考 ・雨天時は体育館で行う。		

中学３年男子サッカー　　単元計画【概要】

１．対象者・期間・授業時数
　中学３年男子前半グループ２９人（Ａ組１０人　Ｂ組１０人　Ｃ組９人）
　２０２０年１１月２６日～２０２１年1月１５日（計１２時間）

２．施設・設備・用具
・サッカーグラウンド全面。雨天時は教室授業。
・正規サッカーゴール４組使用可。
・サッカーボール２９個以上（１人あたり１個の使用可）。

３．教材「サッカー」の特性
１）するスポーツとして
①ドリブル・パス・シュートなど足でのボール操作
②グループ戦術を活かしてチーム貢献
③身体接触が認められている
２）みるスポーツとして
①ルール・勝敗が分かりやすい
②ゲームエリアが広い
③世界各地で多くの人に親しまれている

４．学習目標（スローガン）
１）「するスポーツ」として楽しもう！
２）「みるスポーツ」として楽しもう！
３）「話せるスポーツ」として楽しもう！

５．日程と概要※＝毎時間行うウォーミングアップにしていく。

時数	キーワード	学　習　内　容
1	あそぶ	※リフティング, ※フリードリブル, ボールキック
2	あそぶ	試しのゲーム
3	ボールフィーリング	※パス（受け方・出し方） シュート（ドリブルから・パスを受けてから）
4	ボールフィーリング	変則ゲーム（基本的ゲーム内役割）
5	自由・自主・自律（本時）	変則ゲーム（流動的ゲーム内役割）
6	自由・自主・自律	変則ゲーム（流動的ゲーム内役割）
7	自由・自主・自律	通常ゲーム
8	サッカー攻略	ゲーム（オフサイド活用法, オフサイド攻略法）
9	サッカー攻略	ゲーム（チーム戦術, 個人の役割）
１０	話せるサッカー	通常ゲーム
１１	話せるサッカー	通常ゲーム
１２	話せるサッカー	通常ゲーム

３．教材「サッカー」の特性

１）するスポーツとして

①ドリブル・パス・シュートなど足でのボール操作

⇒日常の生活場面で細かな動作が要求され，神経系も十分発達している「手」が使用できないことがサッカーを難しくさせる大きな要因となります。
ただ一方で，手以外ならどこを使っても良いためプレーに意外性が生まれますし，技術的に未開発の部分なので練習すればするほど上達することが考えられます。
毎時間，達成の喜びを感じることもできますし，授業におけるサッカーの楽しさの源ともいえます。

②グループ戦術を活かしてチーム貢献

⇒いわゆる「チームゲーム」であるということ。個々人に役割と責任があり，各自が勝手なことをしていてはゲームにならない。サッカーを楽しむためには必要不可欠な仲間と連携しなくてはならないわけです。
役割に「ＦＷ・ＭＦ・ＤＦ・ＧＫ」などがあり，責任を果たしていくわけですが，フィールドのどこにいてもいいわけです。ポジションにこだわりすぎるとチームに貢献できないこともあります。常に周囲の状況に目を配り，最善の行動を選択するということは学校生活はもとより，今後の長い人生においても大切な心得であると考えています。本当の意味での「自由」を考えさせてくれる題材だと考えています。

２）みるスポーツとして

⇒勝敗はもちろん，得点の加点方法やゴールインしたかどうかなど，基本的には分かりやすいものになっている。しかし曖昧に知っている・覚えているであろう「オフサイド」などに代表されるが，実際にはプレイエリアは非常に広く，オンザボールではなく，オフザボールでの攻防に注目させる必要があります。
スペースを意識することはもちろん，サポートするべき状況をいち早く理解し行動に移せるかなど，「目を向けるべき範囲は広い」。物事の全体像を捉える重要性を理解するにも適当な題材だと考えています。

中学３年男子サッカー　【授業説明】
１．生徒について

２．指導について

時数	期日	学　習　内　容	生徒の様子・教師の指導
1	11/27	【あそぶ】 《オリエンテーション》 授業の進め方,安全に留意すること等 基本情報を共有。 １）リフティング※次回以降の W-Up 何回続けられたかなどを競争。 ボールコントロールの基本となるが, ゲーム感覚で取り組める。 ２）フリードリブル※次回以降の W-Up １対１の場面や,密集地帯を突破するには ドリブルコントロールが重要。 ゲーム感覚で取り組める。 ３）パス交換※次回以降の W-Up ボールをただ単にキックするのではなく, キックしやすい場所を探り,そこを安定して キックできるように課題意識を持って 取り組む。	⇒落ち着いた態度で教師の声に耳を傾けていた。 ⇒これまでの学年でやってきていた為,早くに理解し積極的に取り組む姿勢が見られた。 ⇒足下のボールばかりに目がいき,「ルックアップ！」の声にも反応は出来なかった。 ⇒場面に応じたキックの違いを理解して取り組もうとする姿勢が見られたが,インステップでのキックはほとんどの生徒が出来なかった。
2	11/28	【あそぶ】 １）Ｗ－Ｕｐ ２）試しのゲーム（半コート）	この授業は他の体育科教員が授業を進めた。 ゲームの感想では攻撃後の切り替え（自陣に戻る動き等）が課題として記憶・共有されていた。
3	12/1	【ボールフィーリング】 １）Ｗ－Ｕｐ 《パス交換》 ボールをただ単にキックするのではなく, キックしやすい場所を探り,そこへボール を置けるように課題意識を持って取り組 む。止める重要性。 ２）シュート ドリブルからのシュート。 パスを受けてからのシュート。	⇒トラップした後,ボールをどの位置に置けるか。それは自分がキックしやすい場所なのかを声かけしながら進めた。トラップ後,ボールコントロールが出来る生徒は少なかった。 ⇒想像よりも積極性を感じられなかった。パス交換の方が意欲的に取り

		強くキック出来ることで，プレーの幅が広がる。	組んだ。強くキックしようとしても出来ない。
4	12/3	【ボールフィーリング】 １）Ｗ－Ｕｐ ２）サッカープレーヤーの役割 ただ単にゲームをするのではなく，自分にどんな事が求められているのか，ポジションを理解し，その仕事を全うしようとする。	
5	12/4	【自由・自主・自律】（研究授業） 《サッカーにおける自由・自主・自律とは》	

実践上の留意点

１．授業説明

中 3 学年男子は，運動意欲が非常に高い集団であり，教師からの投げかけに落ち着いて対応できる生徒たちである。本時までの授業の流れとして，前半は遊ぶをテーマに，ドリルを通して足を使ってボールを操作することに慣れさせた。また，サッカーの究極は 1 対 1 を突破することであると考え，対人でのボール感覚を身に付けさせた。3 時間目からはボールフィーリングをテーマに転換していった。前時はサッカーの役割について学習する時間とした。ここでは，ただ単にゲームをするのではなく自分に求められている役割は何なのかを理解し，どのようにしたら役割に付随した責任が果たせるのか，についての投げかけを行い終了したところであった。生徒からは，自分の役割がはっきりすることで自分のエリア内だけでやるべきことをすればいいのでわかりやすかった反面，ただ何か違和感があるという感想が出た状況で本時を迎えた。

サッカーの特性をほかの球技と比較すると，日常生活で使用している手ではなく足でのボール操作という点があげられる。生徒にとって足での操作は不慣れなことであるため，行動の結果に意外性が生まれる。また，不慣れであるがゆえに，練習をすればするだけ上達するという喜びを多く感じられる。このようなところに競技としての面白さや難しさがあり，サッカーを授業で扱う意義があるのではないかと考えた。さらに，サッカーを楽しむためには個人技能だけでなく，グループ戦術を考えチームに貢献するなどといった，仲間と連携して協力する必要がある。このような特性を踏まえたうえで，サッカーを教材として取り入れようと考えた。

本時の役割設定ゲームでは，自らの役割と責任を理解し，全員攻撃・全員守備ゲームではゲーム全体の動きから「役割に応じて，いま何をすべきかを考え，主体的に行動する」ことを目標とし，全体のゲーム様相を見ながらプレーしようとする姿を目指した。

２．研究協議より

・「サッカーに学ぶ『自由・自主・自律』とは何か。ポジションによって役割があることは不自由であるということになるではないのか。」

→「自律」はパスやドリブルができること，「自主」は状況に応じて行動選択できること，「自由」に関しては，技能（自律）や選択能力（自主）を獲得することで行動できることを「自由」ととらえる。ポジションごとに役割こそあるが，果たすべき責任は状況に応じて変化していくため，生徒は一つのポジションの責任を果たすだけではなく，状況に応じて考えることが自由につながると考える。

・「グループでの話し合いにおいて，生徒同士で気づきや改善点を出し合う場面があったが，生徒たちはゲーム中に自分たちの課題にそもそも気づけていないのか，気づいてはいるけど行動できるだけの運動技能がないのか。また，その気づき自体が間違っている場合はあるのか。教師はそれをどう評価していくのか。」

→生徒たちは課題に気づいてはいるが，すぐに実行できない場合が多い。教師は，生徒が改善しようとする姿勢や，その気づきをもとに行動することで単元を通して変容していく姿を評価している。また，生徒の気づきに完全な間違いというものはないため，考えを尊重しつつ，教師側からの声掛けなどを挟みながら軌道修正を行うようにしている。

・「グループ内にサッカー班の生徒がいるため，発言の説得力に差が出てしまうのではないか。部活動がない教材を使用するべきではなかったのか。」

→どうしても発言の権威性は変わってくるが，経験者の発言を素直に聞くだけでなく，未経験者の発言も聞ける集団であるので問題はないと考えている。さらに，経験者同士のサッカーでは発見できないことを発見できるのが体育の授業であると考えるので，経験者は教えるだけではなく，新たに考えるきっかけになると思う。